SIA*SIGO（しあしご）

ニッポンの職人力に出会う旅

【第16話　ここは藍の国】

山田玲司

一日外で体を使って働いて

日が暮れて
空がゆっくりと深い青に
なっていくと・・

いい知れぬ
落ち着きを
感じることが
ある

今日も一日
無事に
がんばったな

これもまた
遺伝子に
刻まれた
記憶のせいかも
しれない・・

それにしても
和ものといえば
藍色だ

そういうのには
江戸の藍は何と16種類もあった

うるさいよ
江戸っ子はよ

外国で藍染めの色は
「ジャパンブルー」と
呼ばれているらしい

だからサッカーの
代表のユニフォームが
青いのは正しいわけ
ですな

あれは
藍染めの
青なのだ

いっそ
セレモニーだけでも
いいから本物の
藍染めユニフォーム
だったらいいのに

そうしようよ天

それ
どこで
教わったん
ですか？

どこで
教わったかと
いうと・・

その日、僕は栃木県益子に向かっていた

がたがた

200年続く藍屋さんですか・・・

はい

その人は自分で綿を作っているんだそうで・・・

すばらしい工房なんです

綿花から自分で作っているんですか!?

ソトコト、ヒサシマさん

うひゃー まんまお江戸が残ってる・・

200年前のままだそうですよ

こんにちは「しあしご」の山田です

あっ どうも

こんにちはー こちらへどうぞ

ピピ ピピ

おー これまたいいカンジの建物だ・・

こんにちは 日下田(ひけた)です

日下田紺屋9代目 日下田 正さん

よろしくお願いします

糸もここで紡ぐんですね 織りもやってるし

100%自社生産ですね

いえ・・ これなんかは

「アルパカ」です

アルパカ？

いろいろな材料で染めを試すんですけどペルーからこれが入りましてね

こっちは山繭といって自然の繭なんです

"野生もの"ですか

今は自然のバランスが崩れているんで山でもなかなか見つからないんですけど

独特の色が出るんです

"繊維の宝石"と言われまして

こういう色あいになるんです

おー…

ほとんどの色が天然のもので染められるんです

ところがグリーンだけができない

こういう研究をしていたのがあのファーブルなんですけどね

えーっ

そもそもファーブルは地場産業の茜染めの研究をしていたんですがそれがダメになったんで

昆虫のほうにいったといわれているんです

高校や研究学校で先生をしていらっしゃる

日下田さんで学者さんみたいだな…

それにしてもどうして和ものは藍が多いんですか？

藍は歴史が古いんです

4000年前のエジプトのお墓から藍色の布が出てますしね

エジプトに藍染めがあるんですか!!

すごーおもしろい

でも特に日本に藍色が多い気がしますね…

明治22年に来日したラフカディオ・ハーンがこんなことを言っているんですよ

この国大気全体が
心もち青味を帯びて
異常なほど澄み渡っている

青い屋根の下に家も小さく
青い暖簾をさげた店も小さく
青い着物を着て笑っている人も
小さいのだった・・・

なんか美しい幻想的な国が目に浮かびますね・・

ハーンにとって日本は神秘のブルーに満ちた国だったんですね

そんな国で200年の歴史を重ねる日下田紺屋では・・・

近くで本当に綿花を栽培している

大量に安い外国品が入ってくる市場では大変なものづくりだが

やっぱり自分で作ったものはものが違うんです

それをここで撚りをかけて糸にしていくんです

やってみますか？

はっ・・はい

どうですか？

うひゃー

なんかムチャクチャむずかしいです・・・

カコ カコ

イギリスの紡績

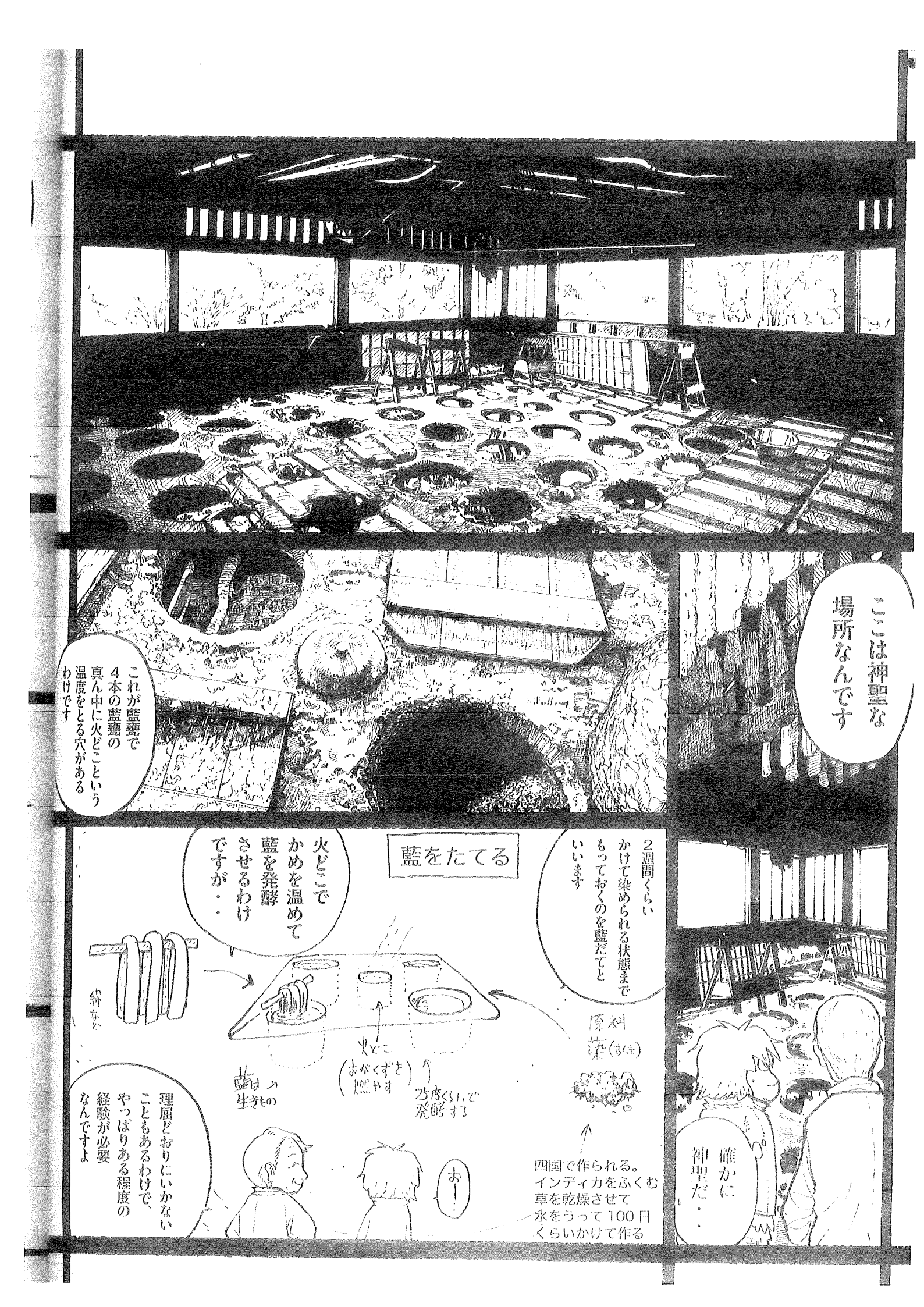
それでここで織るわけです

リン

まいったなこりゃ・・

ここまで一切電気もガスも石油も使ってないじゃないか!!

それでここがいわゆる甕場(かめば)です


ここは神聖な場所なんです
確かに神聖だ・・
これが藍甕で4本の藍甕の真ん中に火どこという温度をとる穴があるわけです
藍をたてる
2週間くらいかけて染められる状態までもっておくのを藍だてといいます
火どこでかめを温めて藍を発酵させるわけですが・・
糸など
火どこ
(おがくずを燃やす)
37度くらいで発酵する
藍は生きもの
原料
蓼(すくも)
四国で作られる。インディカをふくむ草を乾燥させて水をうって100日くらいかけて作る
おー
理屈どおりにいかないこともあるわけで、やっぱりある程度の経験が必要なんですよ

子供の頃から先代がここで働くのを見てたわけですね

ええ 私の父は93で亡くなりましたけど

一番大変な時代でしたからね・・

石油製品の発明 昭和の大不況

今では焼き物で有名になっている益子だが・・・

明治の頃までは普通の生活雑器しか作っていない普通の村だった

そこにイギリス帰りの陶芸家名匠濱田庄司氏が移り住み窯を構えた

バーナードリーチと共に歌だ

そのことが益子を日本有数の焼き物の町にしていくきっかけとなった・・・

濱田氏がイギリスにいた頃産業革命で失われていった手仕事を見直して工業よりも田舎で健康な暮らしをしながらものづくりをするというアーツ・アンド・クラフツ・ムーブメントの真っただ中にあった

その理論的リーダーがウィリアム・モリス

濱田氏はそんなイギリスの農村ユートピアを見て日本でもそれを作ろうとして場所を探していたのだった

まさにロハスの先がけですな

その流れを継いだのが濱田氏だったわけだ

濱田氏が本物の人物であると感じた益子の数軒の名家は彼を温かく迎えた

益子の焼き物は一気に盛んになったが

ある時、濱田氏はさまざまな職人の後継ぎを集めて言った・・・

これから
みんなで・・

益子を
「手作りの町」に
しようじゃ
ないか・・・

そして
その中に
日下田氏の父
日下田博がいた

モリスの魂が
濱田氏を経て
日下田氏に
引き継がれた

父は「藍染屋」は
明治いっぱいの仕事
だと言っていました

新しい技術や
原料も高く
さまざまな背景
から滅びゆく
運命にあったわけ
です・・

でも
一人の紺屋職人として
単なる流れに
身を任せるわけには
いかなかったのだと
思います

そんな父の遺志と
伝統を守るために
日下田正さんは自ら
「益子木綿」という
すべてを益子で作る
木綿織物を作り
始めたのだ・・・

そんなきびしい
状態で藍屋を
継ぐのに抵抗は
なかったんですか?

私は映画少年
だったんですよ

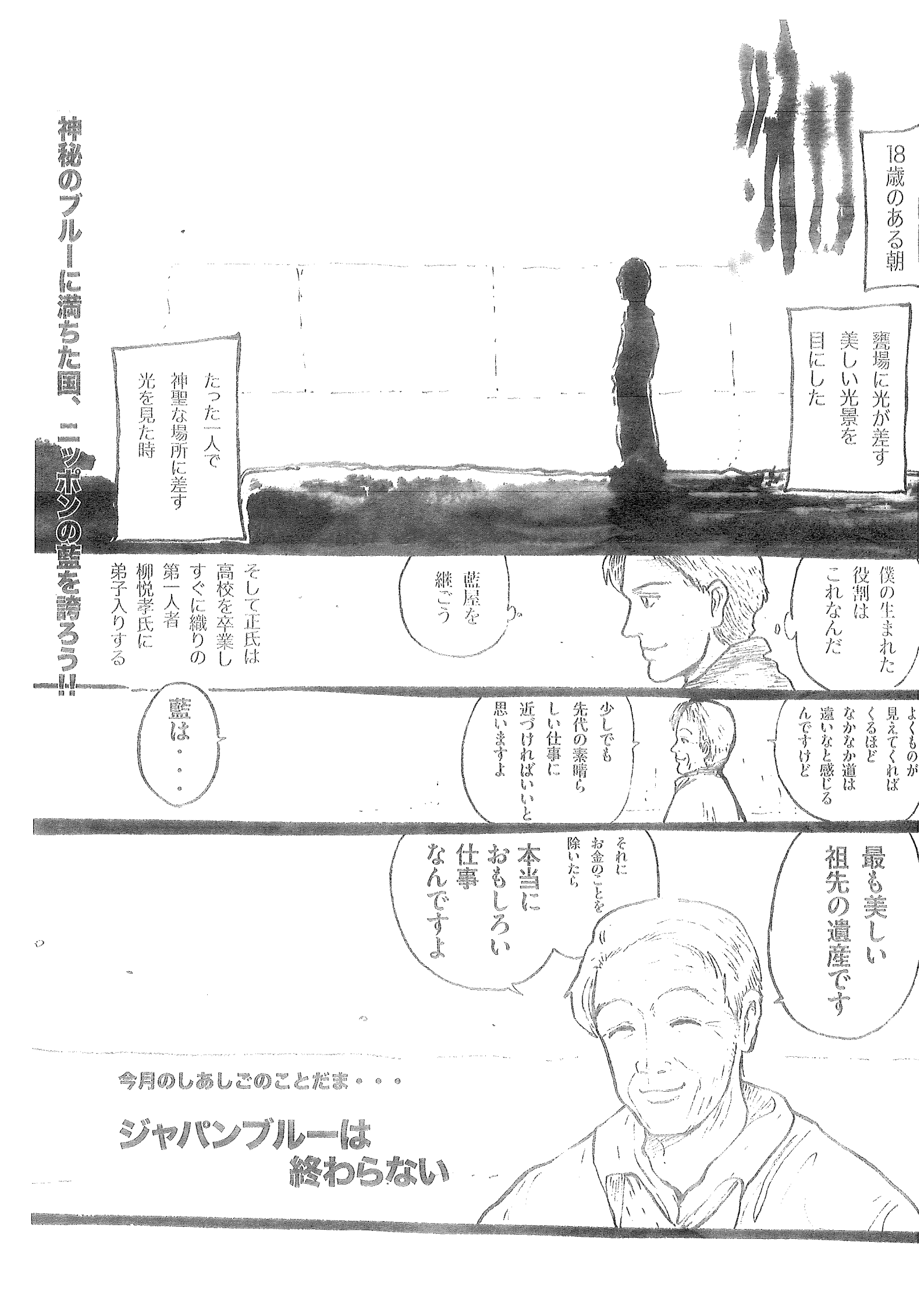
あの時代は黒澤明、
木下恵介、今井正など
日本映画が
一番充実していましたから

高校時代に見た
フランス映画の
『居酒屋』が
印象に残って
いますね・・

オードリ

カレンダー

できれば映画の
世界に進みたいと
思っていた正氏だったが


18歳のある朝
甕場に光が差す
美しい光景を
目にした
たった一人で
神聖な場所に差す
光を見た時
僕の生まれた
役割は
これなんだ
藍屋を
継ごう
そして正氏は
高校を卒業し
すぐに織りの
第一人者
柳悦孝氏に
弟子入りする
よくものが
見えてくれば
くるほど
なかなか道は
遠いなと感じる
んですけど
少しでも
先代の素晴ら
しい仕事に
近づければいいと
思いますよ
藍は・・・
最も美しい
祖先の遺産です
それに
お金のことを
除いたら
本当に
おもしろい
仕事
なんですよ
今月のしあしごのことだま・・・
ジャパンブルーは
終わらない
神秘のブルーに満ちた国、ニッポンの藍を誇ろう!!